

早引

匠家

雛形

三篇

上

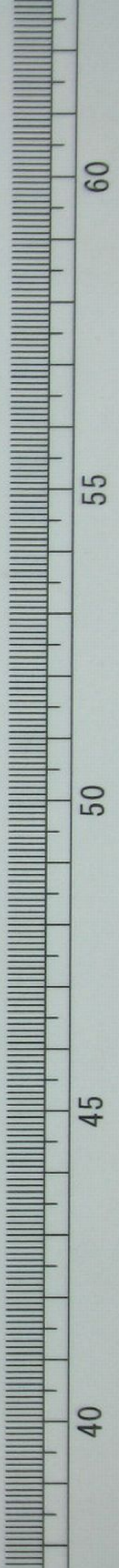
上

上

新撰

本林常將著

△ 7  
484  
1



門  
番  
卷  
484  
1-1

本林常將著

新撰

早引

匠家雛形三編

東都書林

千鐘房  
一貫堂  
合梓

新増  
早引  
匠家雛形三編卷之上目錄

一 三間社

二 同妻女

三 知木勝男木之割

四 五間社

五 同妻女

六 三間四面堂

七 同妻女

八 宝珠露盤之割

九 唐四ツ足門

十 同妻女

十一 大棟門

十二 同妻女

十三 總門

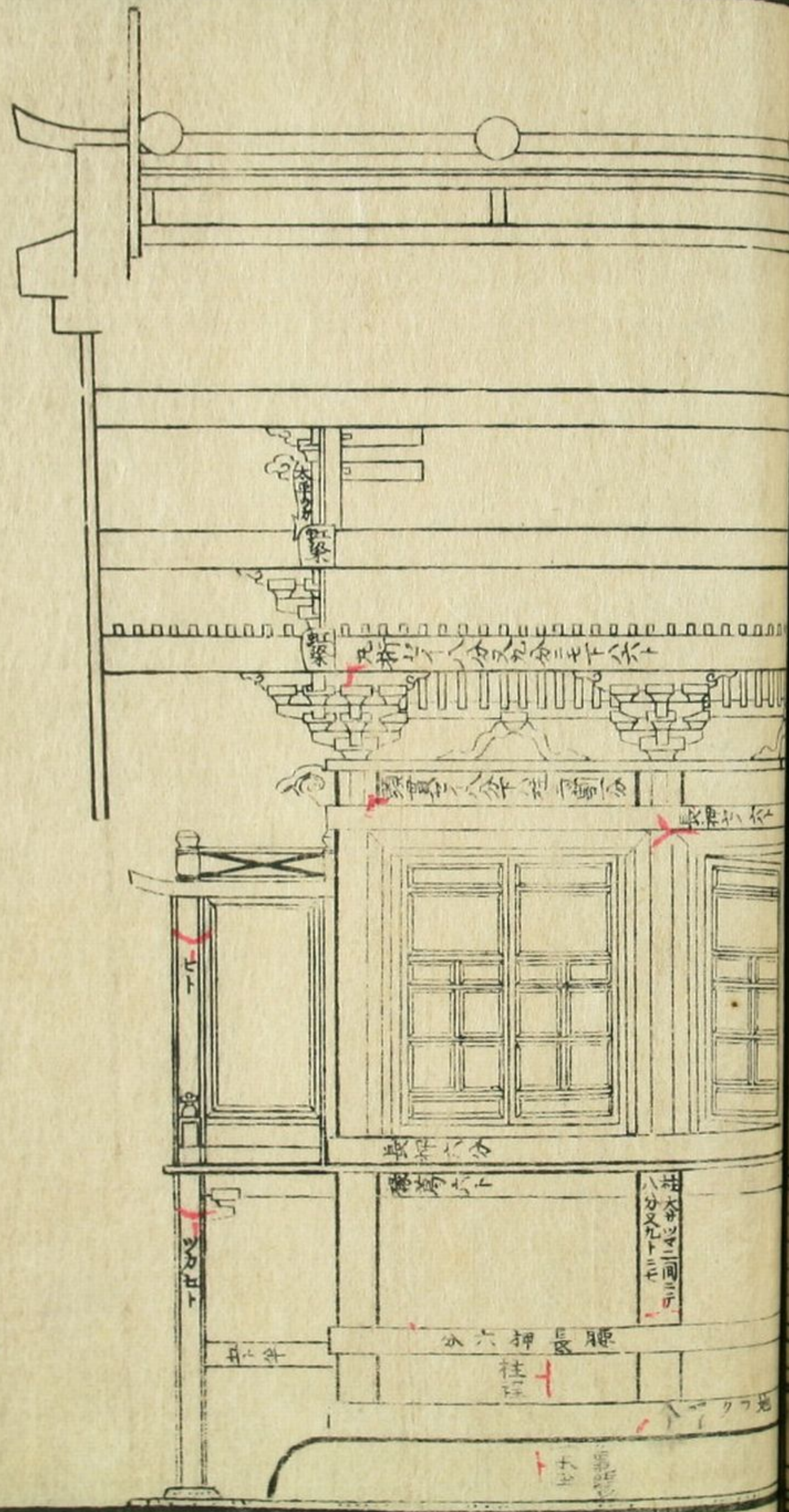
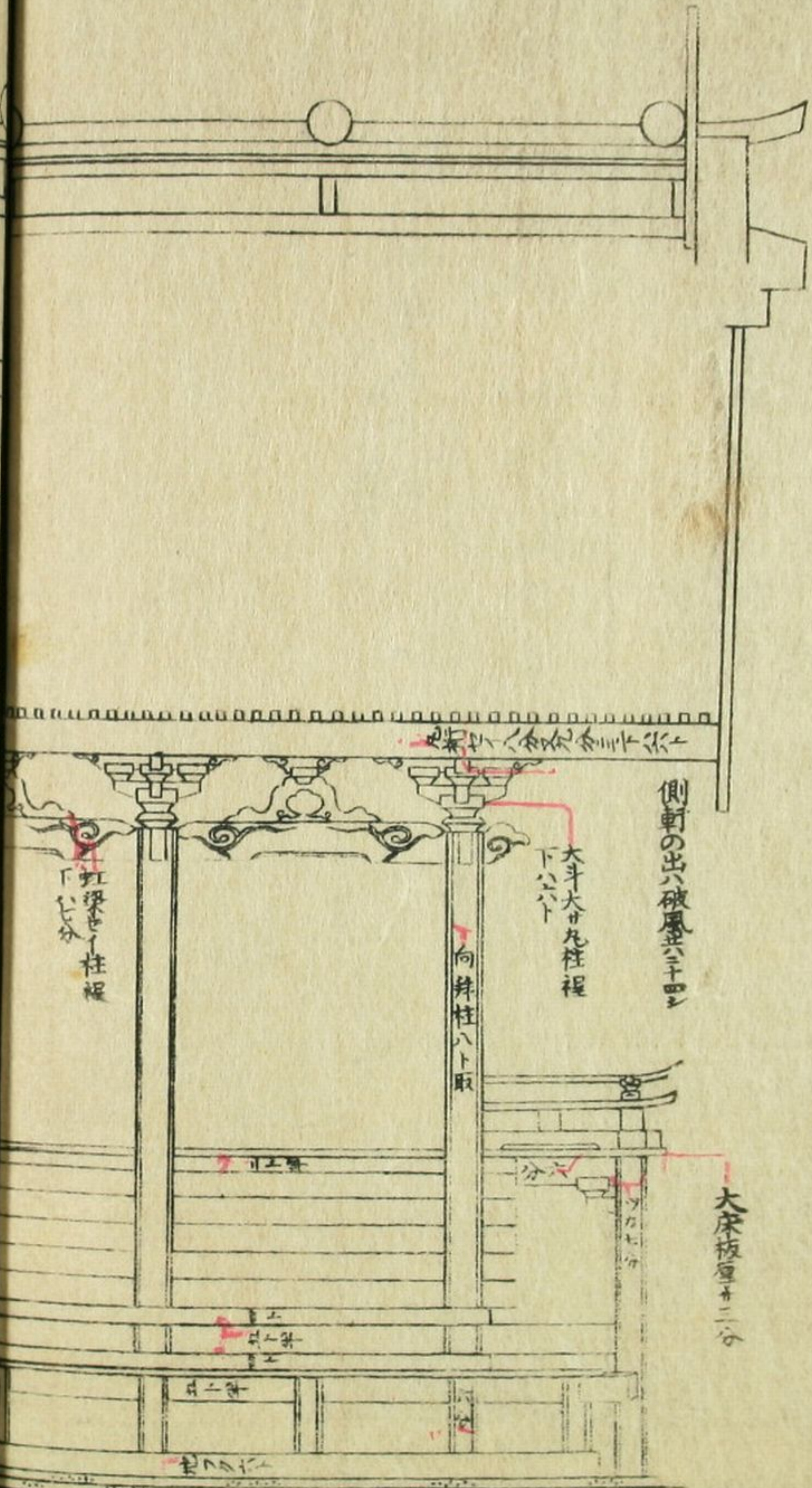
十四 同妻女

十五 金剛垣之割



匠家雛形三編上

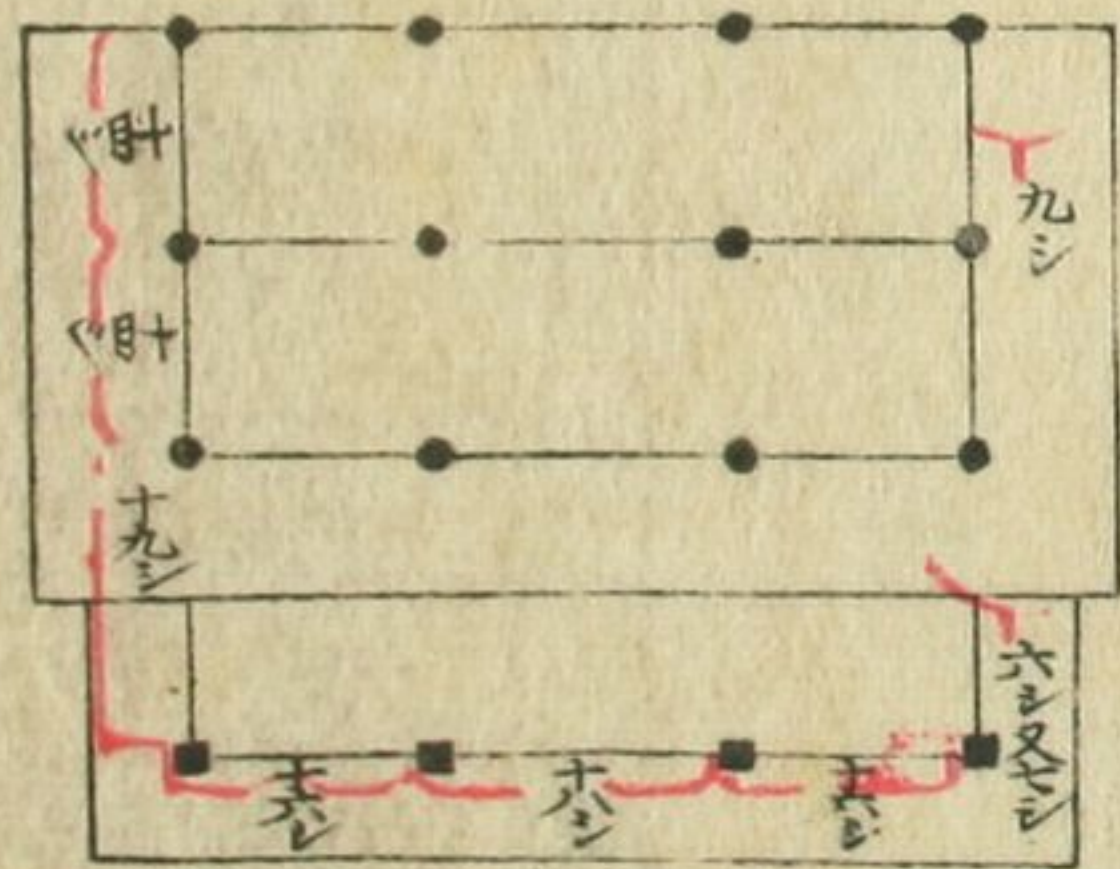
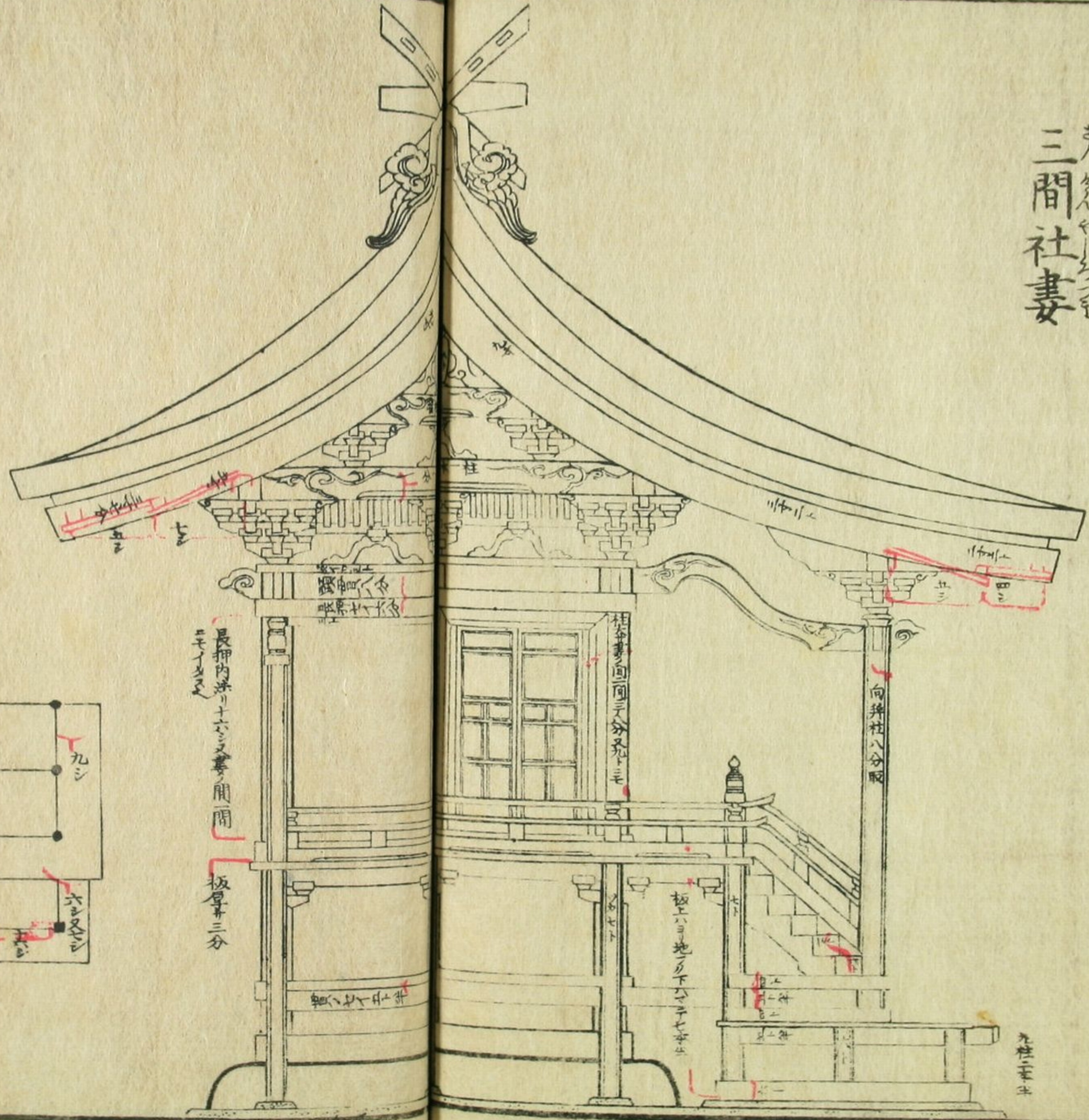
三間社平 さんけんやちひら



匠家三

匠家三

三間社妻さんけんやしろつむ



三間社之事

一柱の大サ妻二間二間ふて八分取九柱九柱又九分取ふと致致をあり向拜  
 柱の大サ八分取角柱角柱なり面ハ七ツとり壹分両方の面小用小用を  
 表中之間十八十八左右之間十六十六妻之間十四十四の間二間  
 長押内法内法リハ十六十六と妻之間壹間中墨中墨と長押内法  
 小と致致をあり濱床の高サも石口石口より板上端板上端へ九柱二  
 本半なり濱床の出ハ六六又七七ふと致致をあり同地震同地震のセイ  
 六分椽椽葛五分半濱椽板厚サ二分半その上上り四分の長  
 押あり次ふ五分半の小壁あり其上其上り四分の長押あり  
 其上其上り大床の板上端板上端まで柱三本半内六分の木段階  
 五五たぐ幅割合幅割合を大床の板厚サ三分板の下小二分の  
 蹴込板あり寸寸三分半ふと致致をあり大床板の上上より  
 濱床の地震下端地震下端まで以上合合て柱七本半なり大床の椽  
 の大サ七分面ハ七ツ先ん水貫水貫のセイ五分半厚サ椽三ツ割  
 壹分なり龜腹龜腹のセイ柱壹本半其上其上り八分地震  
 あり次り柱程の小壁小壁ふして其上其上り六分の腰長押

あり大床の板上端小六分の長押あり其上より三分は  
 敷居あり上ふと三分の鴨居あり内法り長押のセイ六  
 分頭貫セイ八分下端柱三割壹分なり大輪のセイ三分  
 幅ハ柱裏の目あり長押内法りハ十六シ又妻の間壹間  
 残長押内法り小と致をあり九桁セイ八分まゝ九分おと  
 致をあり下端六分向拜虹梁セイ柱程下端七分妻虹梁  
 セイ柱壹本壹分下端七分二重虹梁セイ柱程下ハ七分海  
 老虹梁セイ八分上小増あり下ハ七分向拜の九桁高サも  
 頭貫上端と九桁下ハと見通し合あり極打様ハ棟下向  
 榑勾配九寸次の大母榑勾配三寸二分飛檐勾配二寸二分  
 軒の出ハ大母五シ飛檐四シ後側の大母榑勾配五寸飛  
 檐榑勾配三寸七分軒の出ハ大母七シ飛檐五シ側軒の出ハ  
 破風共小十四シ木員茅員裏甲拵組ととり壹間社の如く  
 破風造り様ハ腰小て柱程まゝ壹分増小と致を之上三分  
 増あり厚サハ榑セイ程又増有と吉鬼板割合ハ破風腰小て  
 二枚四方ヒレと二枚小壹分増有いづれも口傳有之あり



五間社平

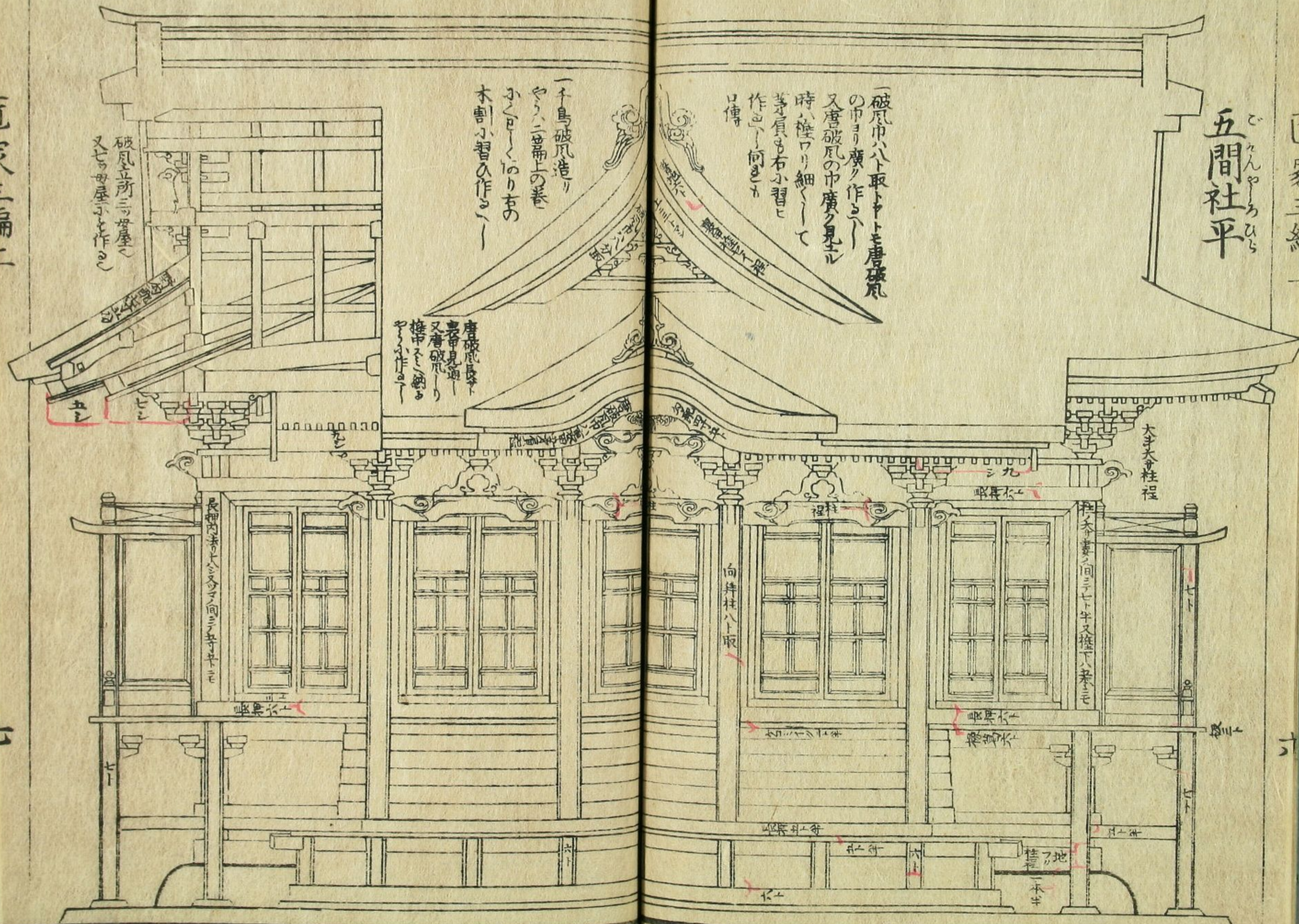
破風巾ハト取トヤトモ唐破風の巾ヨリ廣ク作ラレ又唐破風の中廣ク見ル時ハ椀ワリ細クして茅負も右小習ヒ作ラレ何とモ口傳

一ノ鳥破風造リ  
やうニ二層上の巻  
ふくむくはりのまの  
木割小習ひ作ラレ

唐破風長ト  
表見通  
又唐破風  
接合ニ  
作ラレ

破風立所ニ  
又セウ母屋小ト作レ

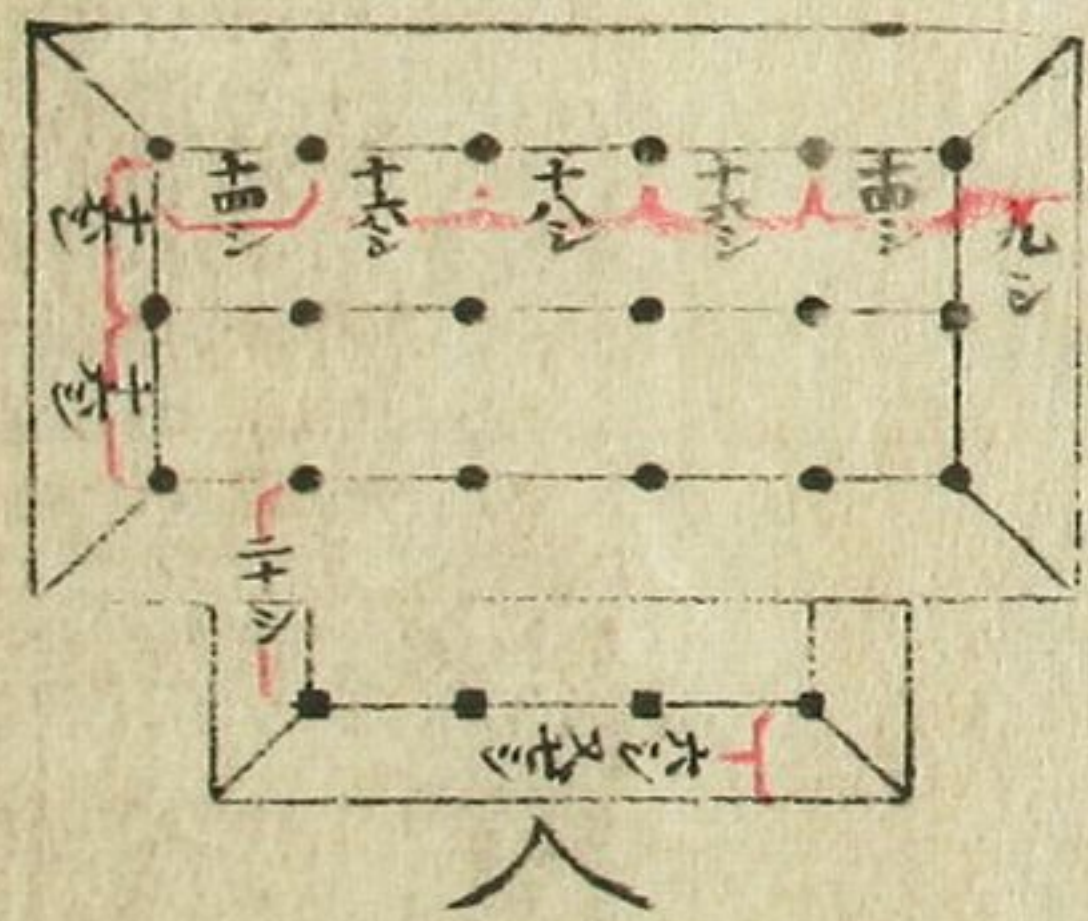
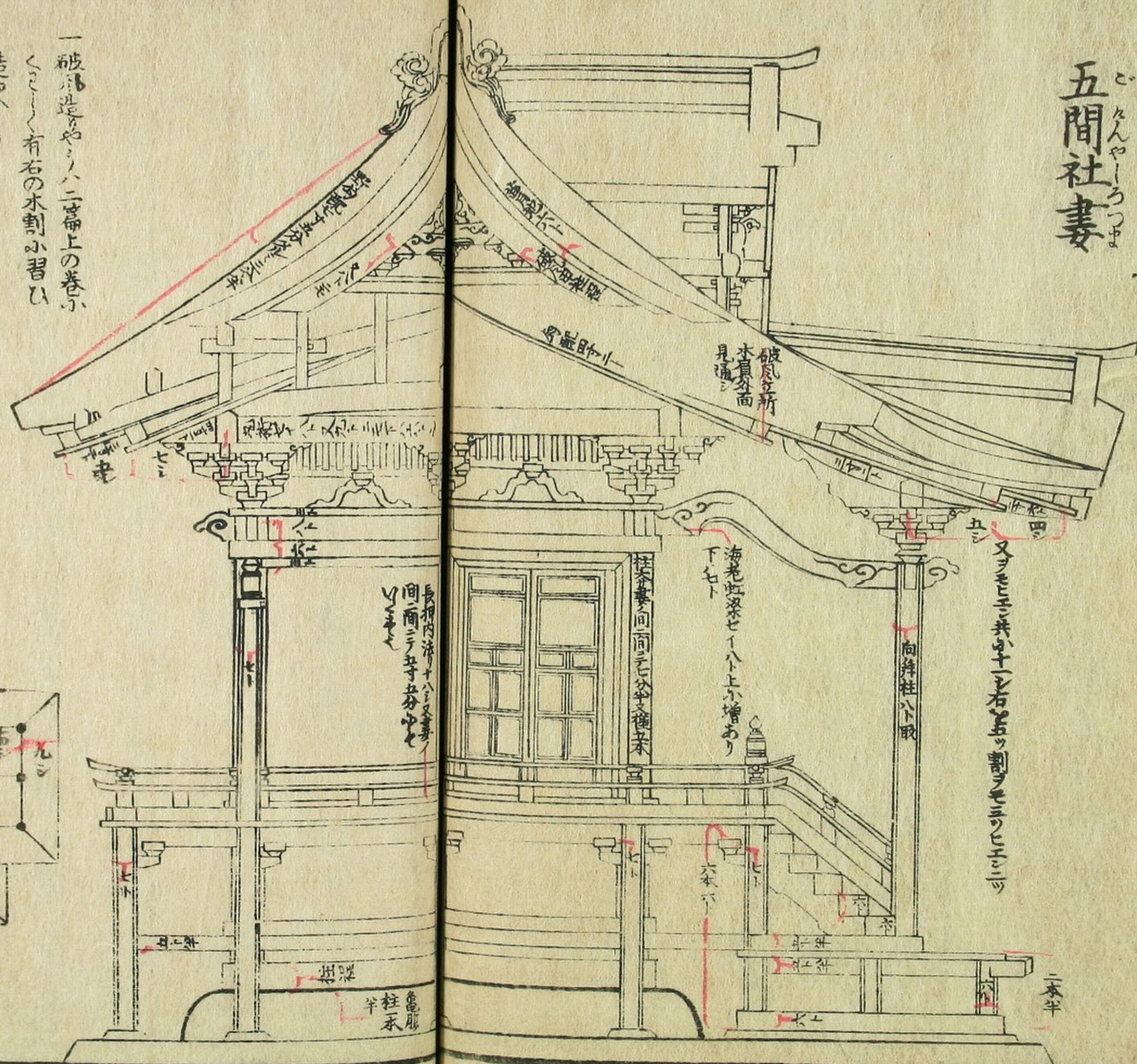
五間社平





五間社妻 いんやうつま

一 破扉造りより二階上の巻ふくこころ有右の木割小習い造り  
 一 鬼板の割合八常の通りかきやうと  
 同断なり



五間社

五間社

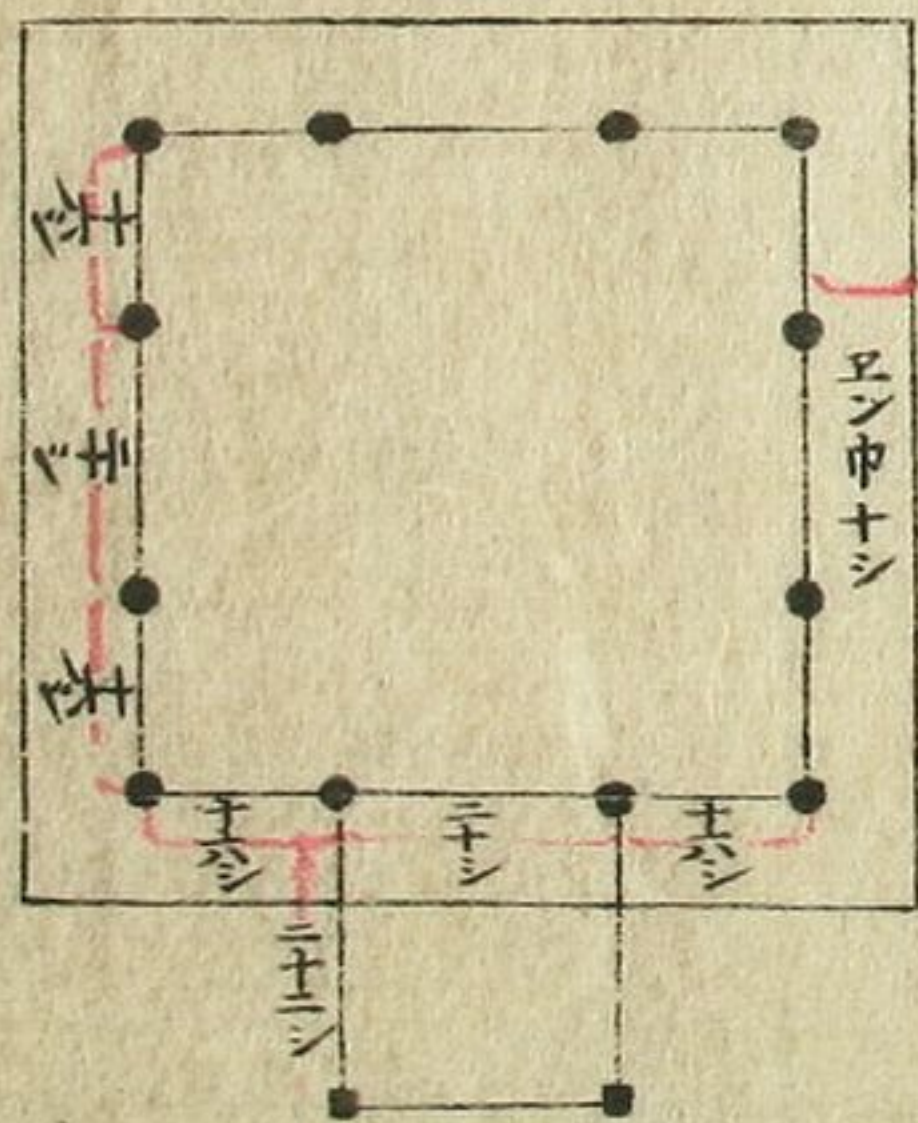
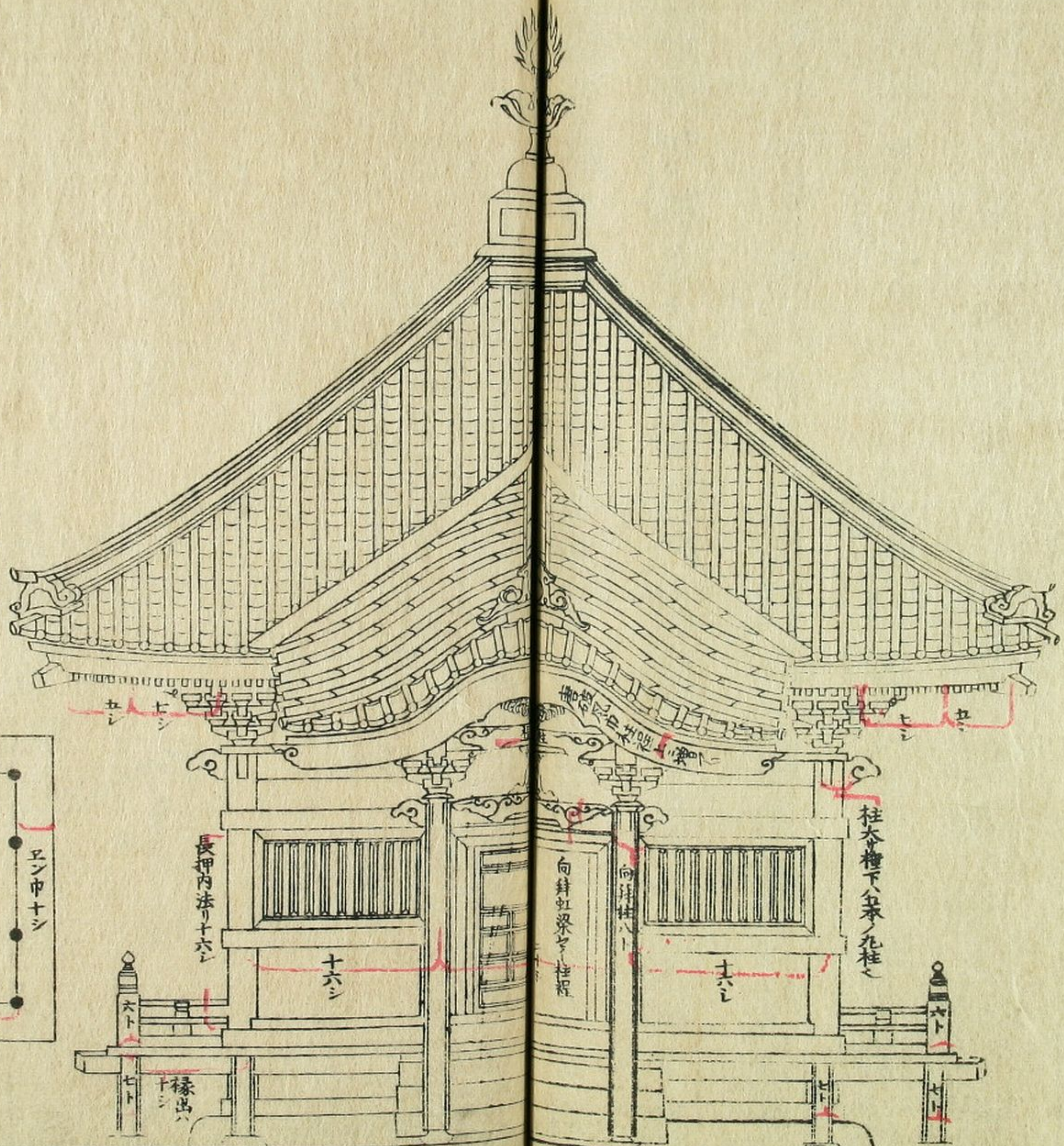
七

五間社之事

一柱の大サ妻の間二間小て七分半取九柱なりまゝ一柱  
 下端五本小を致せをり向拜柱八分取角柱なり面ハ  
 七ツ割壹分両方の面り用也魚一表中の間十八シ  
 次の間十六シ左右の間十四シ妻の間十六シ向拜海  
 老虹梁長サの間二十シ大床の出ハ九シ濱床の出ハ六シ  
 又七シ同高サハ地震下端より濱床板上端まで柱  
 二本半なり地震セイ六分楹大サ六分椽葛五分半濱  
 椽板厚サ二分半其上小五分半の長押あり其上より  
 大床の板上端まで柱二本半内六分の木段階五ツ疊  
 幅割合巻く大床の板厚サ二分板の下小二分の蹴込  
 板あり又二分半小を致せなり大床板の上端より  
 濱床の地震下まで以上合て柱六本六分大床の  
 楹の大サ七分面ハ七ツ面水貫のセイ五分半厚サ楹三ツ  
 壹分なり亀腹のセイ柱壹本半其上小柱程の地震  
 あり次ハ柱程の小壁ふして其上小六分の腰長押あり

大床の板上端小六分の長押あり其上小三分の敷居あり上小七分三分の鴨居あり内法り長押のセイ六分頭貫のセイ八分厚サ柱二ツ割壹分なり長押内法り十八シま二ま二まの妻の間二間ふて五寸五分小を致せあり丸桁のセイ八分又九分小を致せ下端六分なり向拜虹梁セイ柱程下端七分海老虹梁セイ八分上小増あり下端七分向拜の丸桁高サハ頭貫上端と丸桁下端と見通し小合なり榑打様ハ大母榑勾配四寸二分飛檐勾配三寸二分軒の出ハ大母七シ飛檐五シ向拜の飛檐勾配二寸六分軒の出ハ大母五シ飛檐四シ又十一シ右を五ツ割大母三ツ飛檐二ツ野勾配七寸五分を三分破風造りやうハ二篇上の巻小く二く一くにり右は木割り習ひ造はゆ一鬼板の割合ハ常の如し軒唐破風幅ハ裏甲厚リと茅負厚サとの幅なり長サを三十四シ同鬼板の箱棟造りやうハ千鳥破風前包の下端納はやうり造るなりいばきも口傳有之

三間四面堂平  
さんたん ちめん どうひら

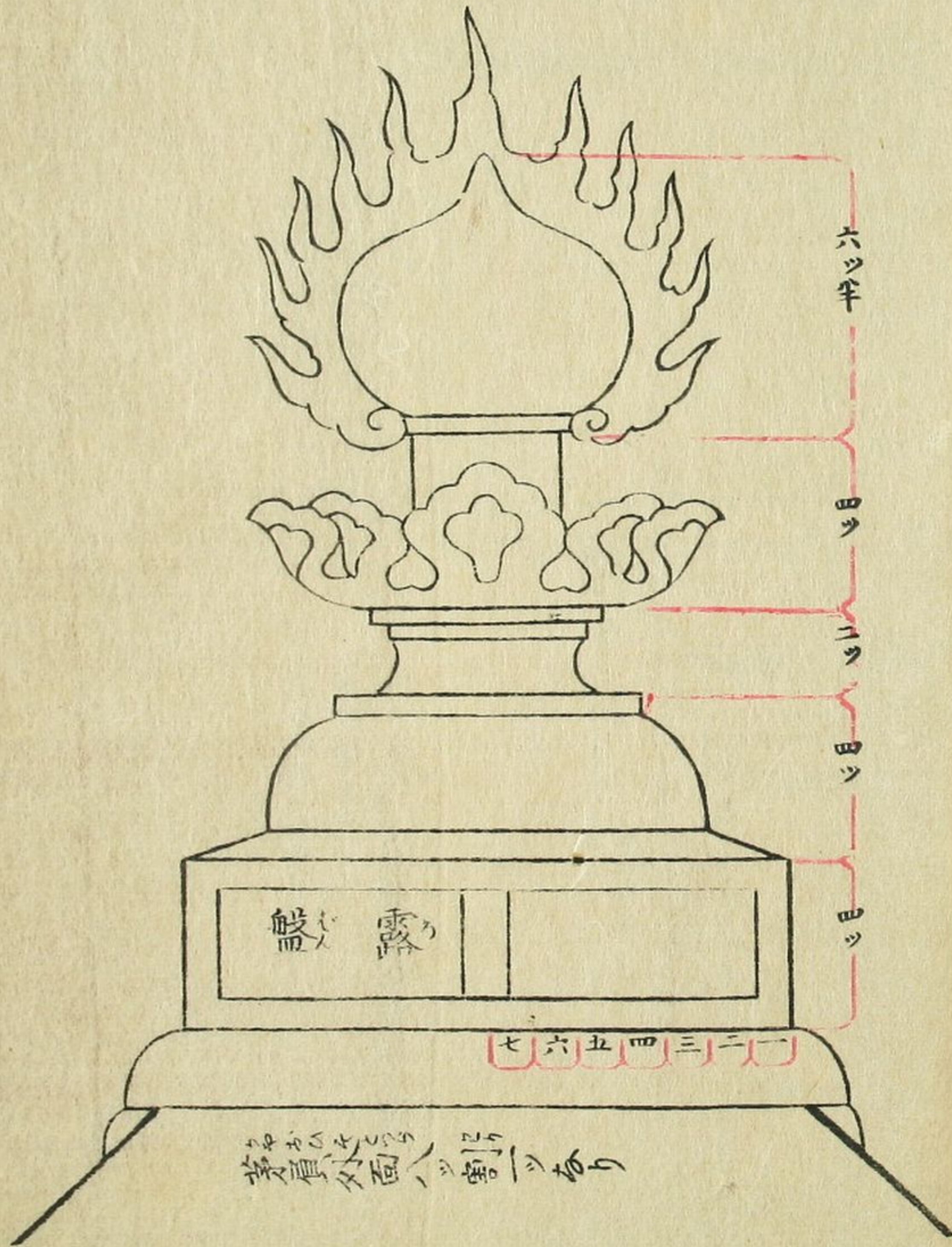




三間四面堂之事

一柱の大サ 檼下端五本の丸柱之向拜柱八分取角柱あり  
 中之間二十シ 左右之間十六シ 向拜海老虹梁長サ  
 之間二十二シ 椽の幅十シ又九シおと致せし同高ハ龜腹  
 下端より椽板下端まで柱三本あり 檼大サ七分 椽葛六分  
 椽板厚サ三分 木段階の幅ハ柱程厚サ八分あり 龜腹のセイ  
 柱程地覆のセイ六分又八分ふと致せし長押のセイ六分  
 敷居三分 腰長押并内法長押ともセイ六分 長押内法ハ  
 十六シ 高サハ振分浅長押上端定む法之上長押の上柱  
 壹本置て頭貫幅ハ八分 大輪厚リ三分 大斗幅柱程割合  
 常の通角連子框の大サ三分半 連子大サ 檼セイ程明キハ  
 木間返し之向拜虹梁のセイ柱程下端七分 昌蒲桁のセイ  
 八分又九分 下端六分 唐破風幅ハ柱程又流レ小て八分取おも  
 上小増あり 同軒の出ハ向拜の間三ツ割 壹分又十一シ 九シの  
 内ハ檼割合小ならひ 造法益一野勾配七寸五分又七  
 寸小とタルと三分半軒の出ハ五間社の如し いつまも口傳有之

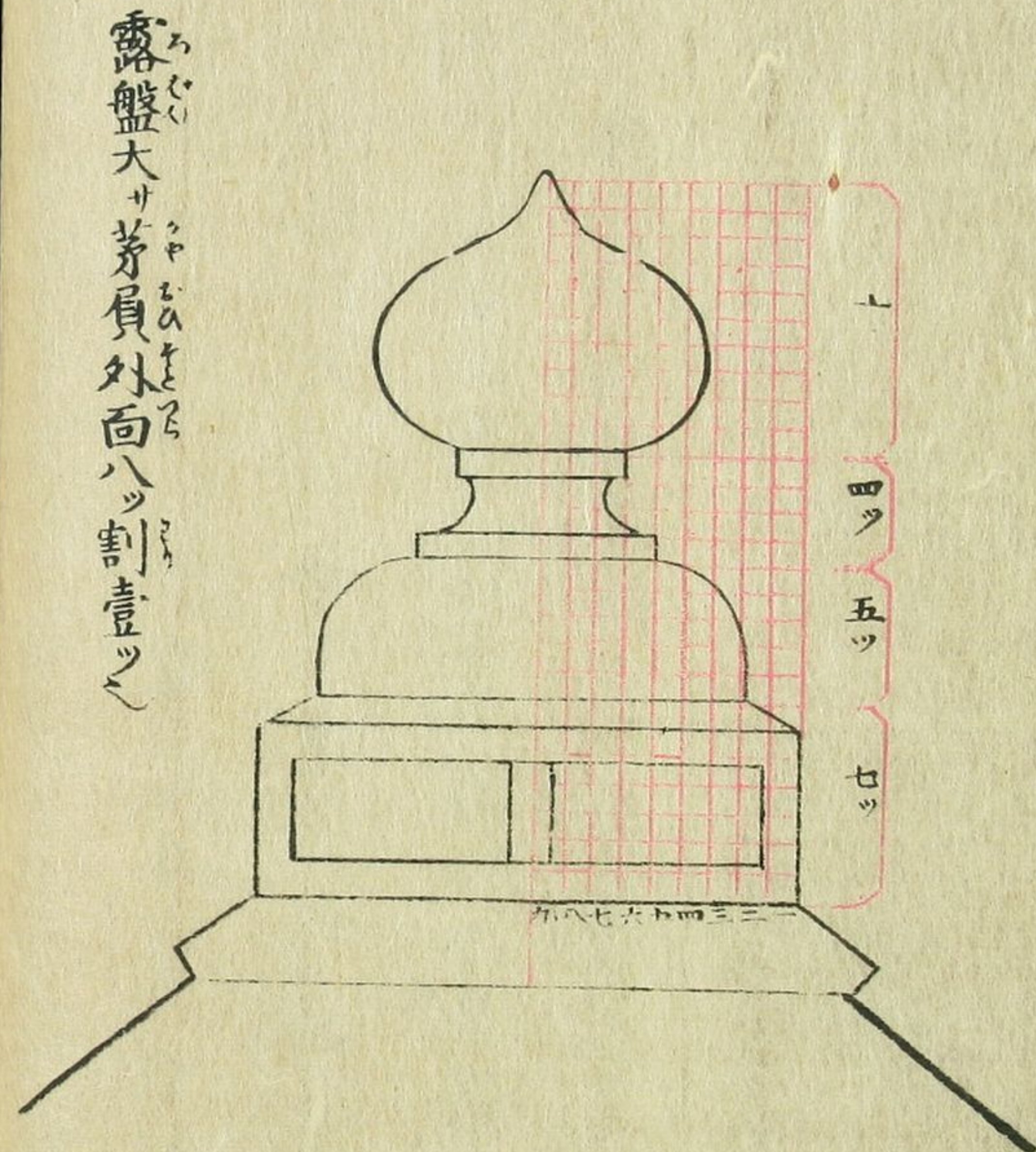
割之盤露珠宝



近景三編上

廿四

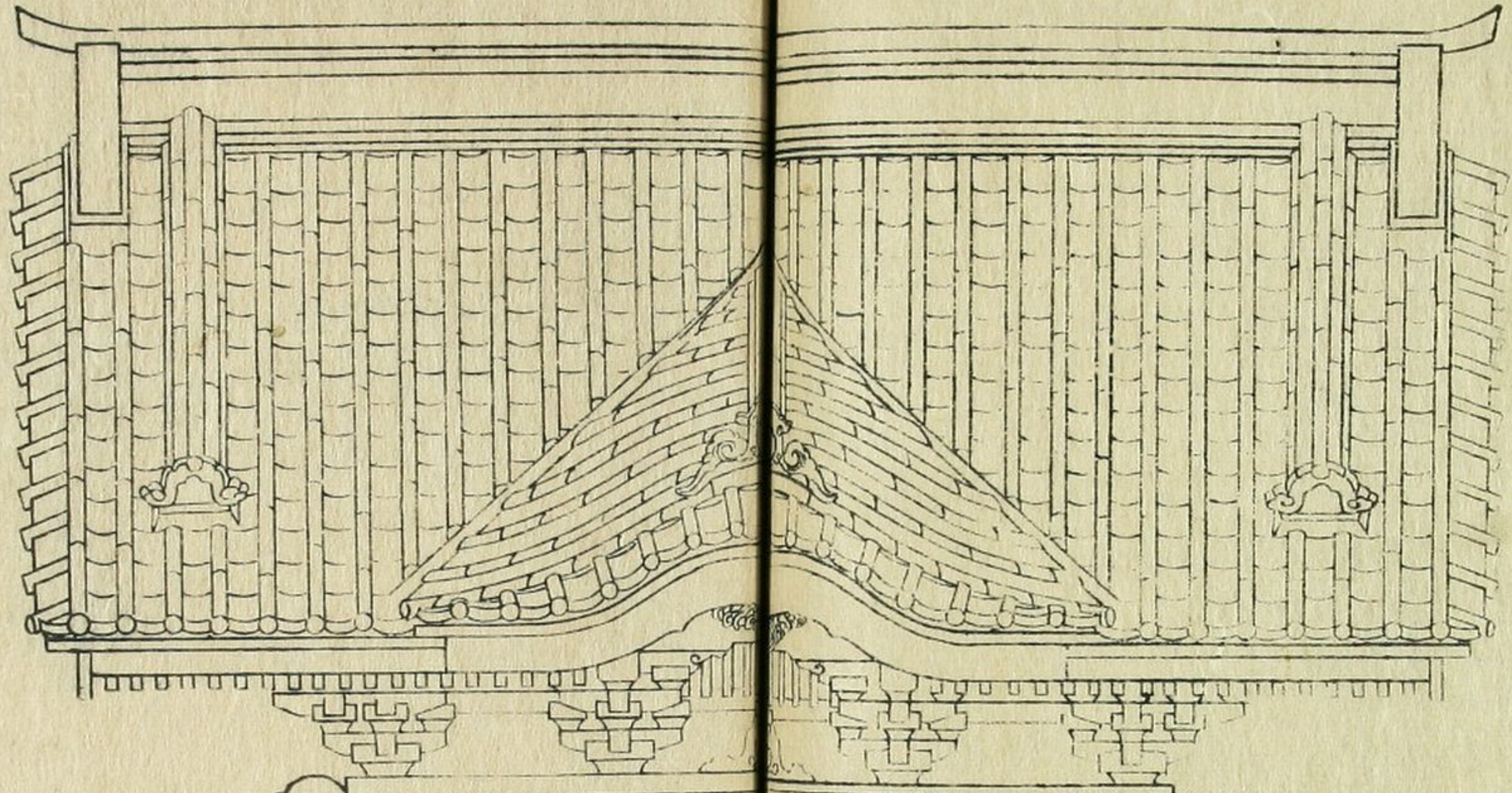
割之珠寶意如



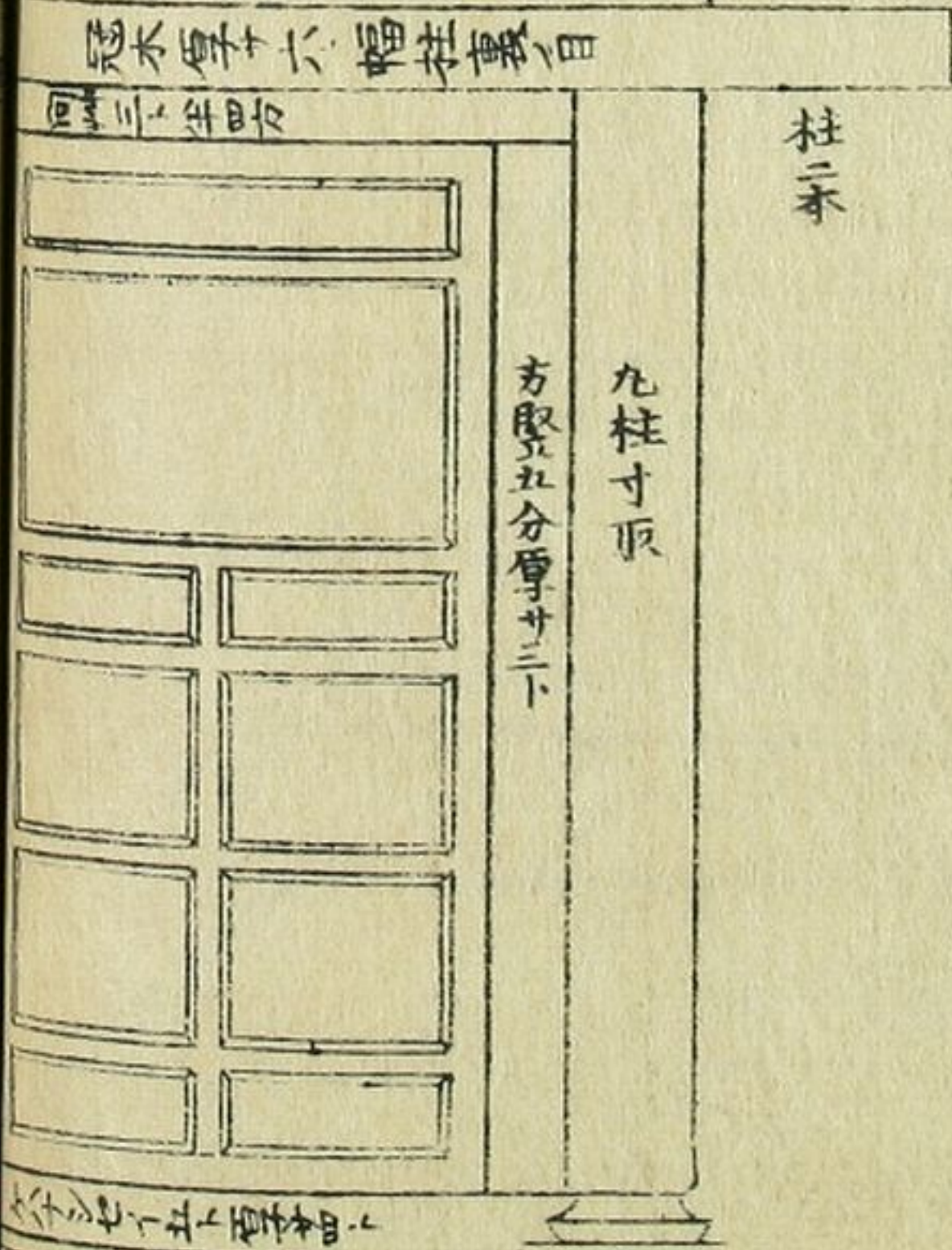
近景三編上

廿五

唐四ツ足門平



一側軒の出ハ柱間より十ニ  
妻虹梁より九ニ  
一大斗大九ト又柱程小割合ハ常之通

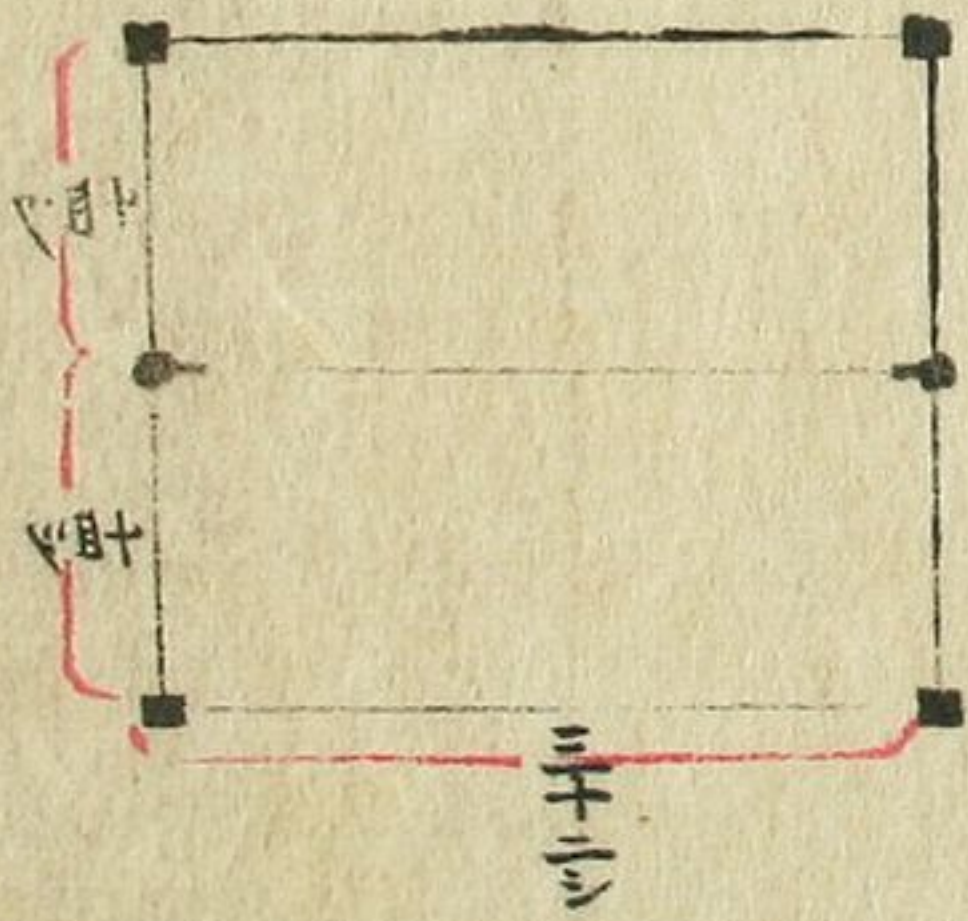


柱二系

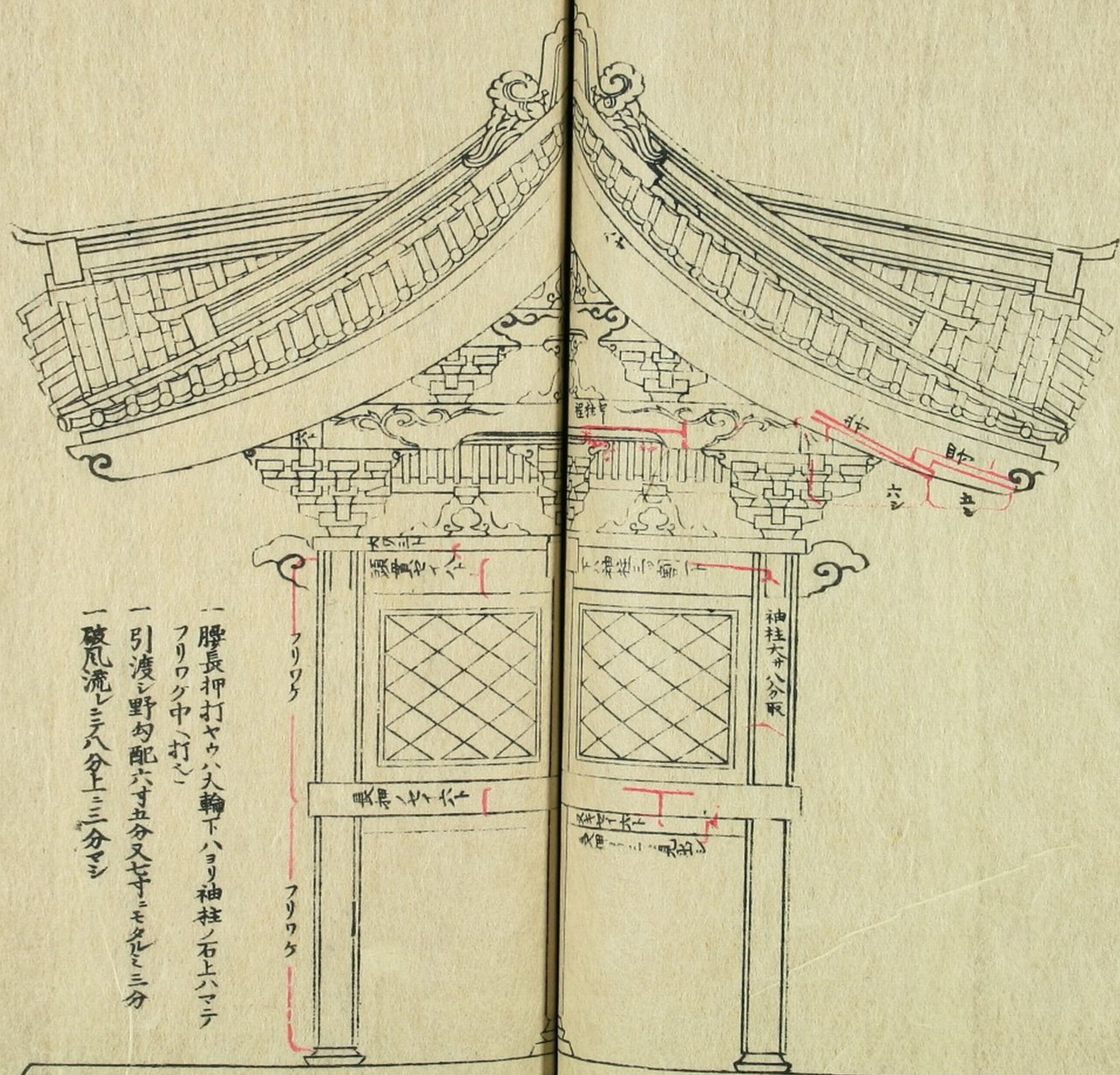
九柱寸取

方堅五分厚サニト

一高サ内法リ七寸五分  
クハソノ上ハエ當  
一軒唐破瓦昌蒲折ノ向十四シ  
一表ノ向三十二シ



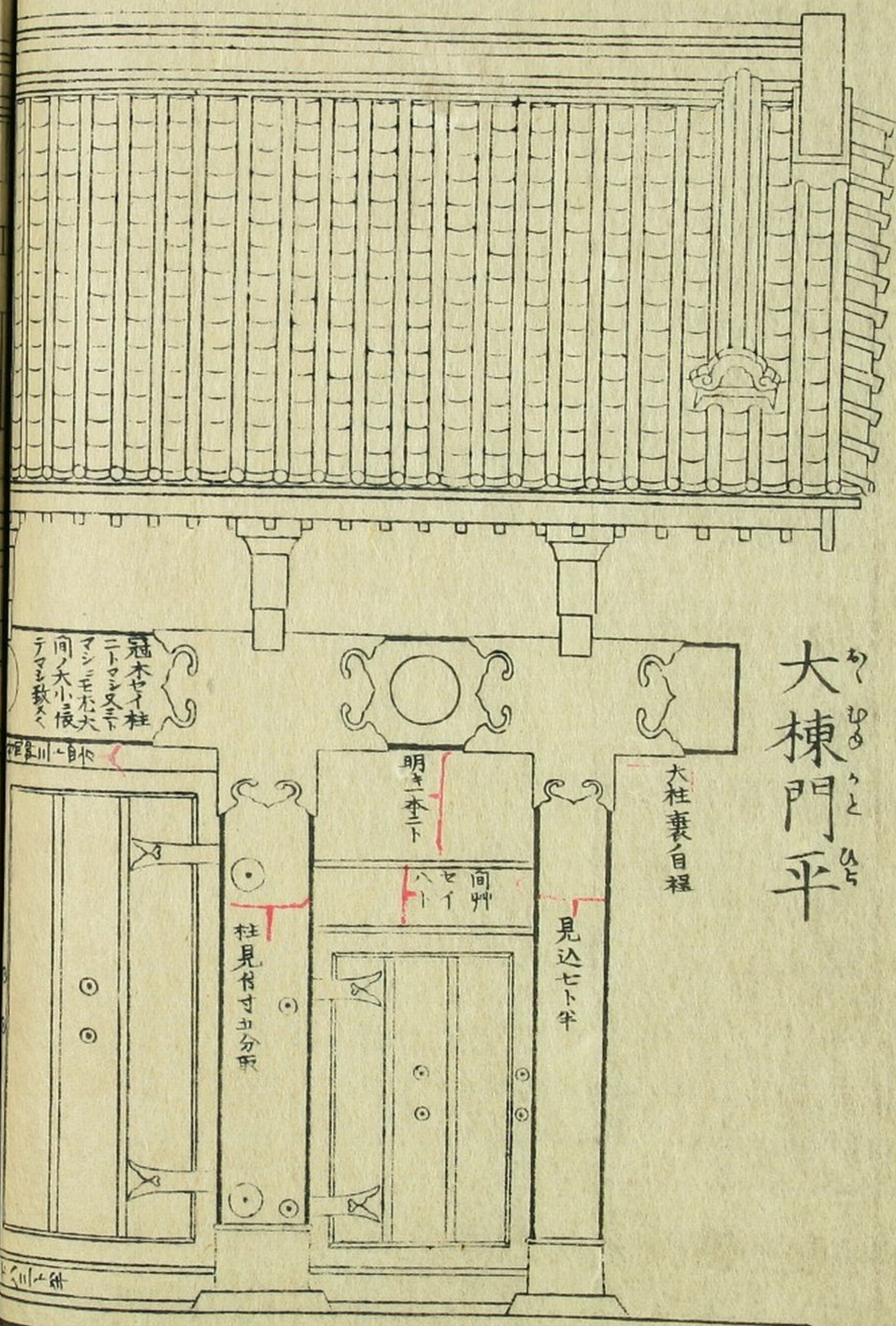
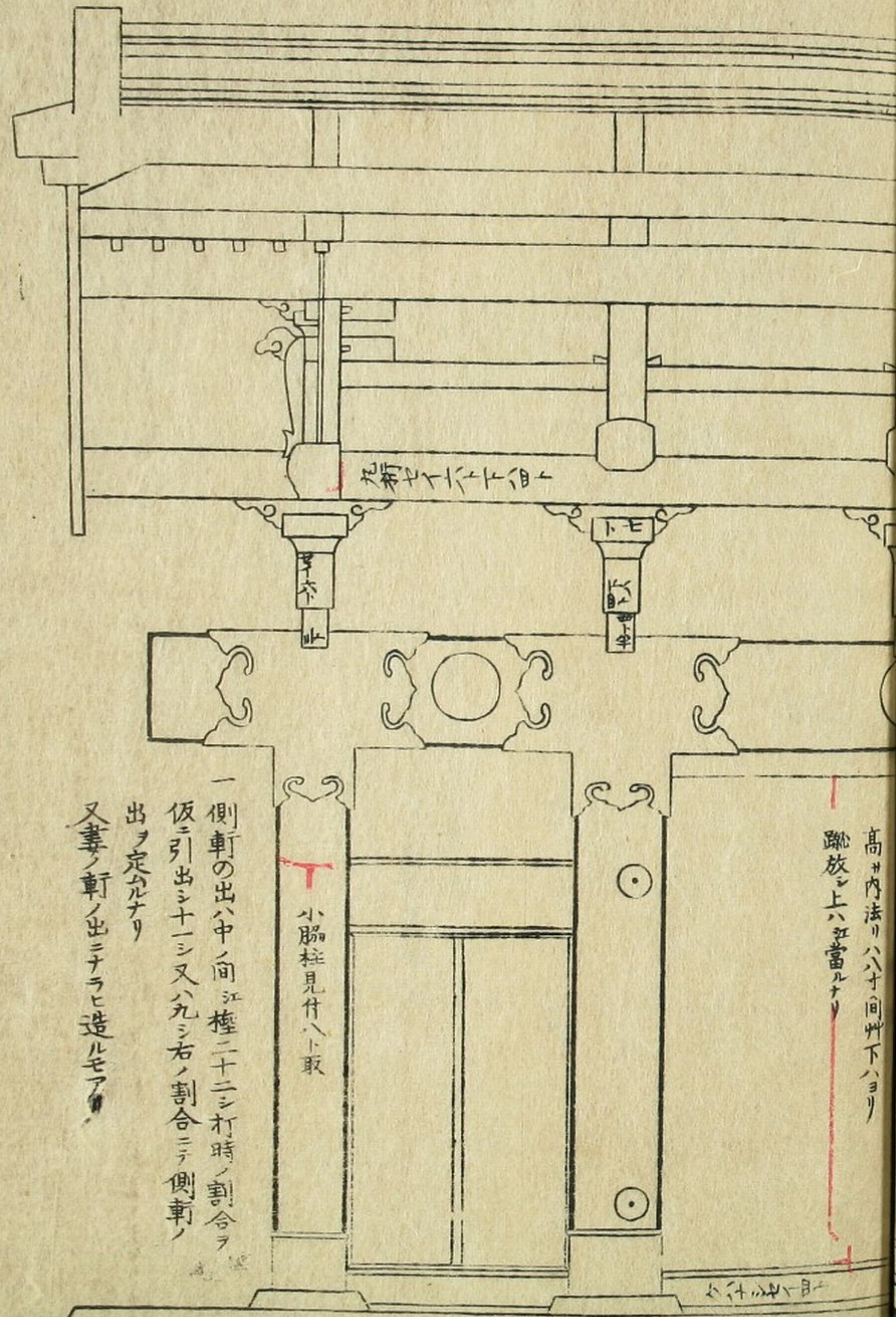


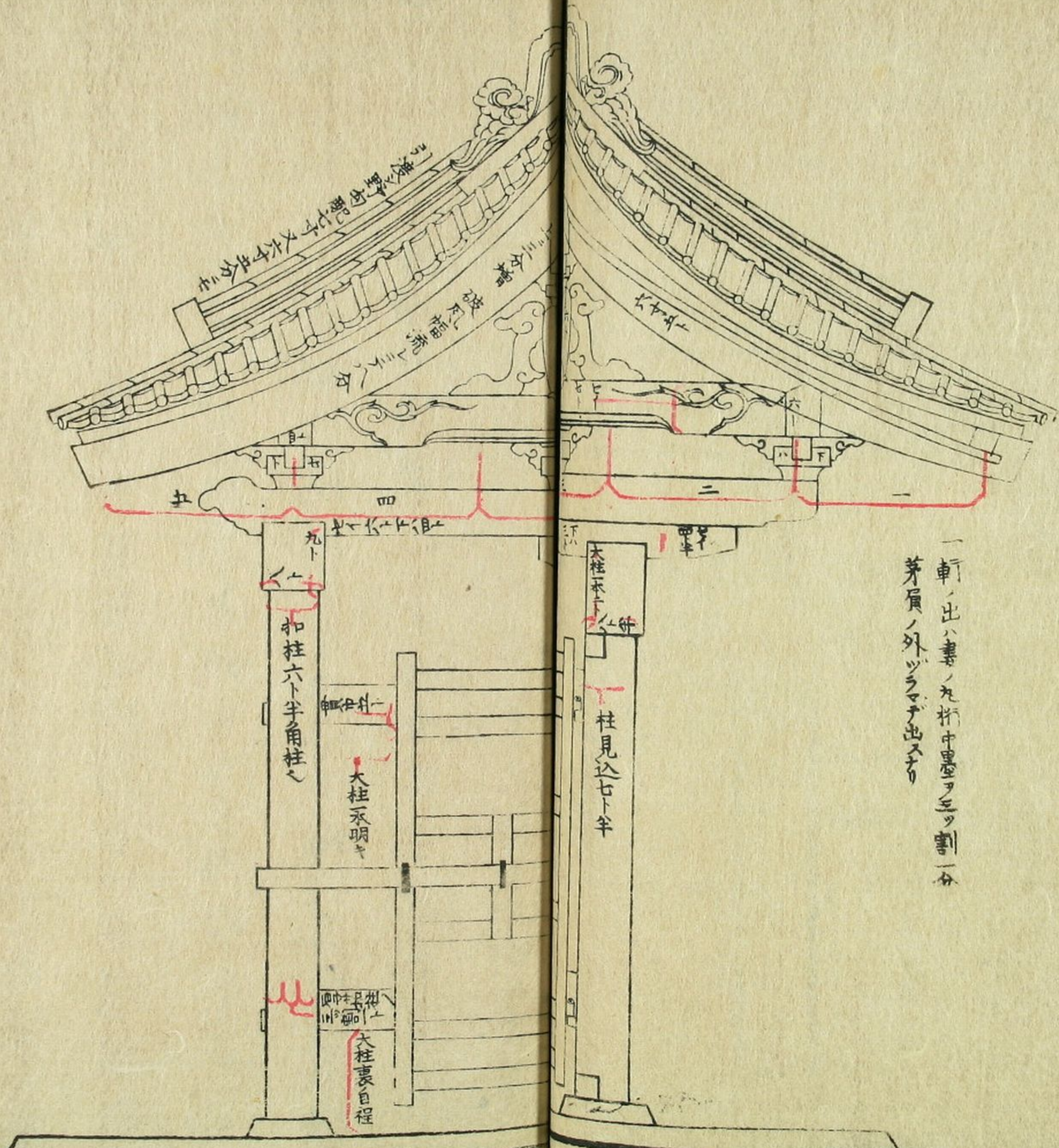


唐四ツ足門妻

唐四ツ足門之事

一柱の大サ表の間小て寸取丸柱なり袖柱の大サ八分取角  
 柱なり貫のセイ六分腰長押のセイ六分蹴放のセイ五分厚サ  
 四分間艸三分半四方方堅五分厚サ三分頭貫のセイ  
 八分下端袖柱の三ッ割壹分なり表之間頭貫下八分  
 又虹梁小くしてセイ柱程まゝ寸壹分小を致をなり何き  
 荷持小依てタルとあきやう小造はなり冠木の厚サ六  
 分幅柱の裏の目程大輪の厚サ三分大斗の大サ九分まゝと  
 柱不と小を致を妻虹梁セイ柱不とまゝと九分小を  
 いぬをなり丸桁のセイ八分まゝと九分小を下端六分  
 化粧棟勾配八寸小大母勾配五寸飛檐勾配四寸軒の  
 出ハ大母六シ飛檐五シ側軒の出ハ柱の間より十一シ  
 引渡シ野勾配六寸五分又七寸小を致をくタルと三分半  
 破風造りやうハ流き小て八分取上小三分のまゝあり  
 軒唐破風造りやうも二篇上の巻りくこくあり  
 右りならひて造は登くいばきも口傳有之なり





大棟門妻  
おひんぐとつま

一軒の出八妻ノ九折中墨ヲ三ツ割ニ分  
茅葺ノ外ツラマデ出スナリ

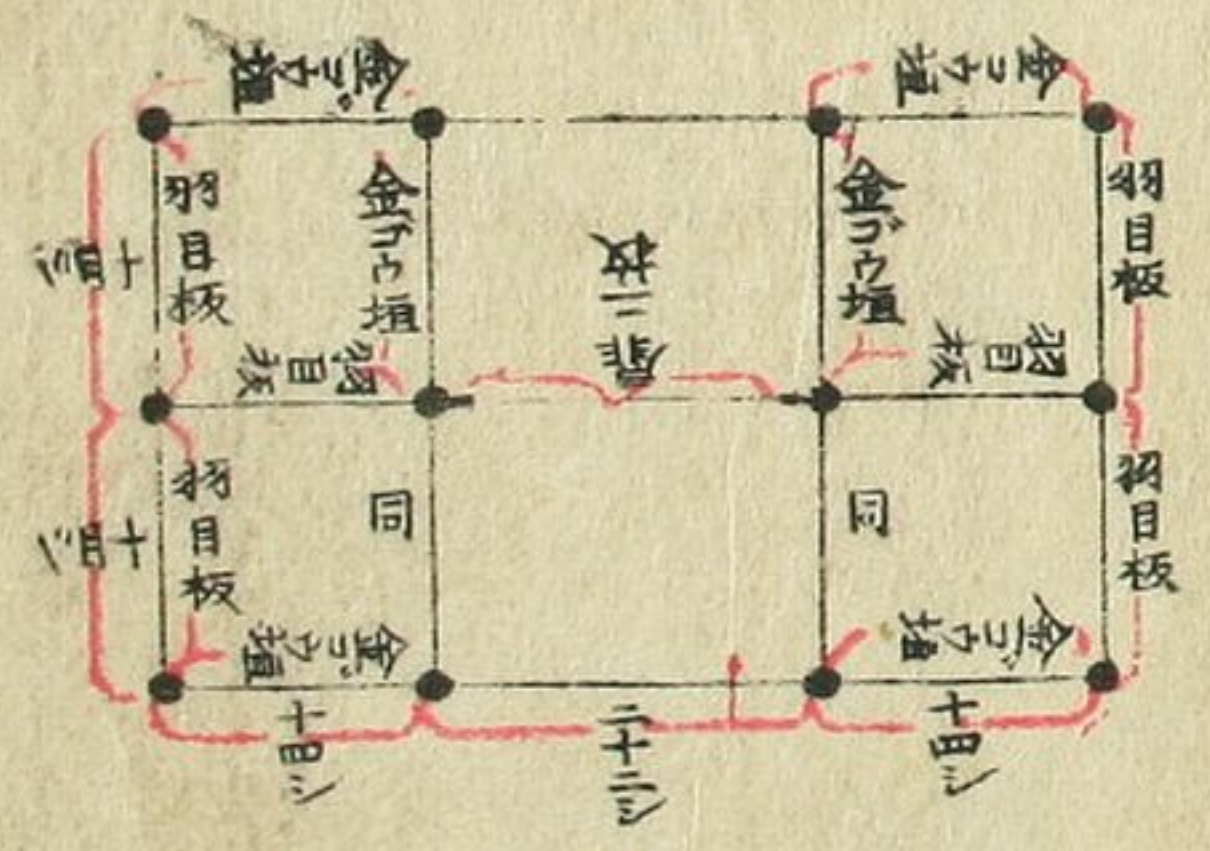
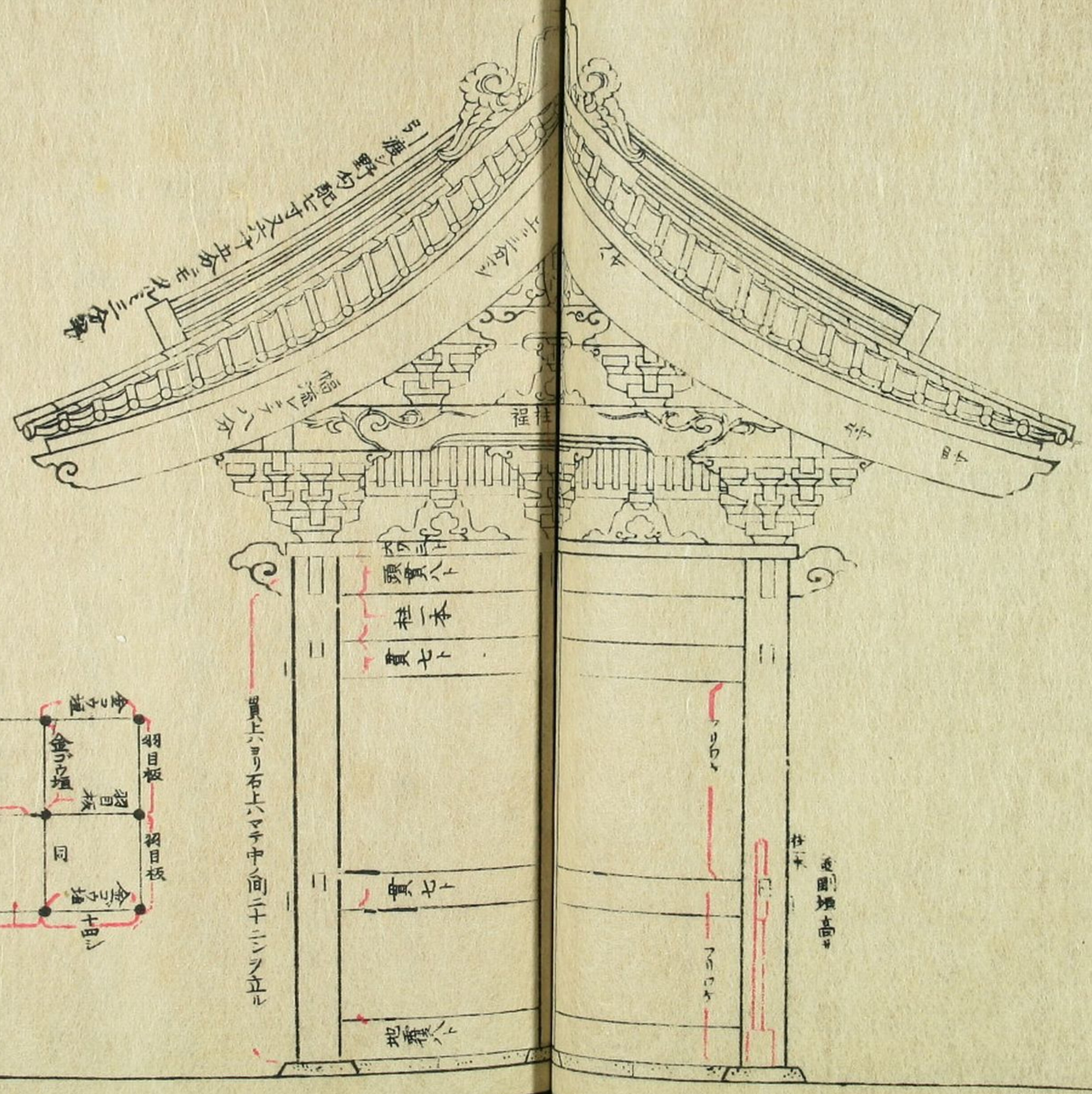
大棟門之事

一柱の大サ大間よて寸五分取見込ハ七分半小脇柱の見  
 付八分取見込ハ七分半扣柱の大サ六分半角柱なり  
 蹴放シセイ四分下端三分半附間艸三分四方冠木の  
 セイ柱二分増又三分増小を致せなり内冠木のセイ  
 九分下端八分小脇の間艸セイ八分下端六分陽梁の  
 セイ六分下端四分陰梁のセイ四分半下バ三分大斗の  
 下バ七分割合ハ常の通り九桁のセイ六分下ハ四分妻柱

梁セイ七分太平極大サ六分極の大サ柱七ツ割壹分  
 セイ二分まゝ化粧勾配六寸五分又六寸小も致せなり  
 軒の出ハ妻の九桁中墨二ツ割壹分茅負の外回リ  
 定むはなり側軒比出ハ中之間へ極二十二シ打時の  
 極割伐引出シ十一シまゝと九シ右の割合小て側軒比  
 出伐定むはなり又妻の軒の出りならひはを海を  
 へるまゝ引渡野勾配七寸まゝと六寸五分小も致せ  
 破風幅ハ流レ小て八分上小三分増ありいびきも傳有之



總門妻  
もんづま



貫上ヨリ石上ハマチ中へ向ニ十三シツ立ル

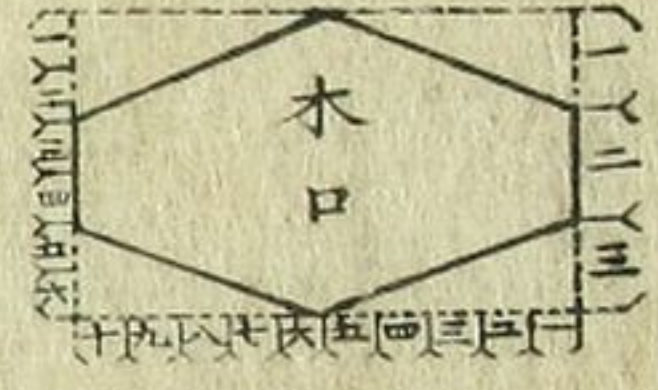
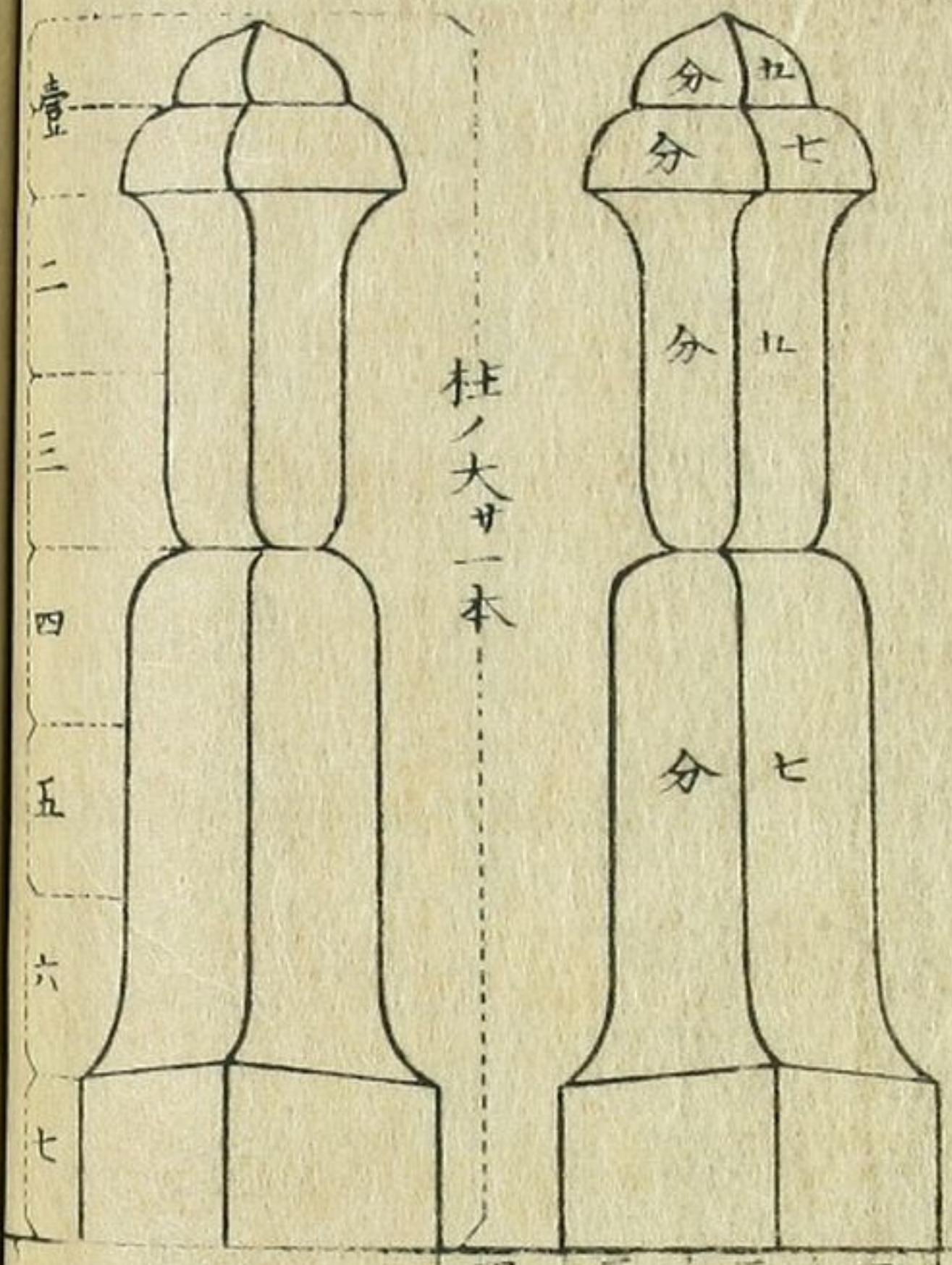
總門之事

一柱の大サ中の間小て寸一分取丸柱なり蹴放シセイ五分  
 半厚サ四分地震のセイ八分貫のセイ七分下端柱三ツ  
 割壹分なり間艸三分半四方虹梁のセイ柱程頭貫  
 セイ八分虹梁と頭貫の明キ柱壹本なり大輪の厚サ  
 三分幅ハ柱の裏の目やど又二分まゝ小セ致をなり  
 冠木のセイ七分下端柱の裏の目やど方堅五分厚サ  
 三分高サハ貫上端より石上端まで中の間二十二シ浅  
 立ハ金剛垣の高サも頭貫下端より石上端まで振  
 と多なり金剛垣大サ柱の三分同明キも柱の壹分  
 なり數ハ十四本立なり貫上端より柱の大サ壹本出  
 けなり大斗大サ柱やど又九分小セ致をなり割合も  
 常の通り丸桁のセイ八分まゝと九分小セ致を下ハ六分  
 妻虹梁セイ柱やど化粧勾配八寸小五寸小四寸なり  
 破風幅も流レて八分取上小三分増引渡野勾配七寸  
 まと六寸五分小をいたをなりいじまを口傳有之



# 金剛垣之割

一 金剛ノ出ハ貫上ハヨリ柱一本  
 出ル之大サ柱ノ三分厚サ木口  
 割ノ如シ明キハ一分アリ



貫ノ幅七分

--	--	--	--

